

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	成城大学				
② 大学等の設置者	学校法人成城学園				
③ 設置形態	私立大学				
④ 所在地	東京都世田谷区成城6-1-20				
⑤ 申請するプログラム又は授業科目名称	データサイエンス基礎力育成・認定プログラム				
⑥ プログラムの開設年度	平成27年度				
⑦ 教員数	(常勤)	148	人		
	(非常勤)	414	人		
⑧ プログラムの授業を教えている教員数		2	人		
⑨ 全学部・学科の入学定員		1,215	人		
⑩ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	5,581	人		
1年次	1,312	人	2年次	1,331	人
3年次	1,318	人	4年次	1,620	人
5年次	-	人	6年次	-	人
⑪ プログラムの運営責任者	(責任者名)	小宮路 雅博	(役職名)	データサイエンス教育研究センター長	
⑫ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	データサイエンス教育研究センター委員会				
	(責任者名)	小宮路 雅博	(役職名)	データサイエンス教育研究センター長	
⑬ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	成城大学データサイエンス教育研究センター自己点検・評価委員会				
	(責任者名)	小宮路 雅博	(役職名)	データサイエンス教育研究センター自己点検・評価委員会委員長	
⑭ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム				

連絡先

所属部署名	事務局総務課(データサイエンス教育研究センター)	担当者名	総務課長 中村 裕
E-mail	ercds3-jimu_s@seijo.jp	電話番号	03-3482-9421

学校名：成城大学

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 具体的な修了要件

本学では、日本IBM東京基礎研究所との包括的な連携協定に基づき、平成27年度より全学共通教育科目の中にデータサイエンス科目群を設置し、理数系教育の推進、および、学部・学科の教育課程をサポートすることを目的として、データサイエンス教育に取り組んできた。

データサイエンス科目群は「基礎」から「応用」までに対応する6科目で構成され、以下4科目の修得者には、学長名で「データサイエンス基礎力ディプロマ」を授与している。

- ① データサイエンス概論
- ② データサイエンス入門Ⅰ
- ③ データサイエンス入門Ⅱ
- ④ データサイエンス・スキルアップ・プログラム

③ 授業科目名称

授業科目名称		授業科目名称	
1	データサイエンス概論	26	
2	データサイエンス入門Ⅰ	27	
3	データサイエンス入門Ⅱ	28	
4	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	29	
5		30	
6		31	
7		32	
8		33	
9		34	
10		35	
11		36	
12		37	
13		38	
14		39	
15		40	
16		41	
17		42	
18		43	
19		44	
20		45	
21		46	
22		47	
23		48	
24		49	
25		50	

学校名： 成城大学

プログラムの履修者数等の実績について

学部・学科名称	収容定員	令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度		履修者数合計	履修率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部(社会科学)	1,440	214	14	113	1	62	0	34	0	2	0	1	0	426	30%
文芸学部(人文科学)	1,500	83	1	45	0	20	0	12	0	1	0	0	0	161	11%
法学部(社会科学)	960	13	1	6	0	3	0	0	0	0	0	1	0	23	2%
社会イノベーション学部(社会科学)	960	71	2	25	2	25	0	12	0	1	0	0	0	134	14%
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
合計	4,860	381	18	189	3	110	0	58	0	4	0	2	0	744	15%

補足：本学はプログラム修了条件を4科目と厳しくしているため、履修者数と比べると修了者数が少ない状況である。なお、過年度を含めた単位修得率は87%であり、入門科目の人気は極めて高い。

プログラムの授業内容・概要

① プログラムを構成する授業の内容・概要 (数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業概要	
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>「データサイエンス概論」はデータサイエンスへの興味を促す導入講義であり、ビッグデータの分析技術や実際の適用事例を先に学びます。ビッグデータには、数値データだけでなく、テキストや映像、写真、音声といった、従来はデータ分析の対象になっていなかったものも含まれます。IBM WatsonなどのAIを使ってアプリケーションの作成も体験します。データサイエンスを学ぶモチベーションが沸く授業です。</p> <p>ビッグデータがその存在感を強め始めてから数年が経ちます。ソーシャル・ネットワークやスマートフォンの急激な普及によって、一般消費者が情報システムに気軽にアクセスし、生活の一部として大量のデータを利用・生成するようになりました。こうしたデータには人の言葉で書かれた「テキスト」の他、画像、映像、音声といった、従来集計の対象になっていなかったものが大量に含まれています。そして人々は、そのビッグデータからいかに多くの価値ある知見が得られるかということに興味を持ち始めました。また、コンピューターが思考しているように見え、人と自然に対話するシーンは、これまで多くの映画や小説の中に登場してきましたが、それらは今ビッグデータを活用しながら次第に現実のものとなってきています。本データサイエンス概論では、ビッグデータに関する様々な技術や適用事例をトピック毎に紹介して理解するとともに、実際にアプリケーションの作成を体験することを目標とします。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	データサイエンス概論	本コース全体ガイドおよびデータサイエンスを取り巻く環境(1)
	データサイエンス概論	AI ブームの再燃：IBM Watson の誕生(2)

<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	授業概要	
	<p>「データサイエンス概論」はデータサイエンスへの興味を促す導入講義であり、ビッグデータの分析技術や実際の適用事例を先に学びます。ビッグデータには、数値データだけでなく、テキストや映像、写真、音声といった、従来はデータ分析の対象になっていなかったものも含まれます。IBM WatsonなどのAIを使ってアプリケーションの作成も体験します。データサイエンスを学ぶモチベーションが沸く授業です。</p> <p>ビッグデータがその存在感を強め始めてから数年が経ちます。ソーシャル・ネットワークやスマートフォンの急激な普及によって、一般消費者が情報システムに気軽にアクセスし、生活の一部として大量のデータを利用・生成するようになりました。こうしたデータには人の言葉で書かれた「テキスト」の他、画像、映像、音声といった、従来集計の対象になっていなかったものが大量に含まれています。そして人々は、そのビッグデータからいかに多くの価値ある知見が得られるかということに興味を持ち始めました。また、コンピューターが思考しているように見え、人と自然に対話するシーンは、これまで多くの映画や小説の中に登場してきましたが、それらは今ビッグデータを活用しながら次第に現実のものとなってきています。本データサイエンス概論では、ビッグデータに関する様々な技術や適用事例をトピック毎に紹介して理解するとともに、実際にアプリケーションの作成を体験することを目標とします。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	データサイエンス概論	社会やビジネスを大きく変える第3世代のコンピューティング(3)
	データサイエンス概論	地域活性化に向けたビッグデータの利活用ーRESAS 地域経済分析システム(10)
	データサイエンス概論	社会に浸透するロボットの利活用(12)

授業概要		
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	<p>「データサイエンス概論」はデータサイエンスへの興味を促す導入講義であり、ビッグデータの分析技術や実際の適用事例を先に学びます。ビッグデータには、数値データだけでなく、テキストや映像、写真、音声といった、従来はデータ分析の対象になっていなかったものも含まれます。IBM WatsonなどのAIを使ってアプリケーションの作成も体験します。データサイエンスを学ぶモチベーションが沸く授業です。</p> <p>ビッグデータがその存在感を強め始めてから数年が経ちます。ソーシャル・ネットワークやスマートフォンの急激な普及によって、一般消費者が情報システムに気軽にアクセスし、生活の一部として大量のデータを利用・生成するようになりました。こうしたデータには人の言葉で書かれた「テキスト」の他、画像、映像、音声といった、従来集計の対象になっていなかったものが大量に含まれています。そして人々は、そのビッグデータからいかに多くの価値ある知見が得られるかということに興味を持ち始めました。また、コンピューターが思考しているように見え、人と自然に対話するシーンは、これまで多くの映画や小説の中に登場してきましたが、それらは今ビッグデータを活用しながら次第に現実のものとなってきています。本データサイエンス概論では、ビッグデータに関する様々な技術や適用事例をトピック毎に紹介して理解するとともに、実際にアプリケーションの作成を体験することを目標とします。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	データサイエンス概論	第3世代のコンピューティング Watson の応用 (マーケティング, 金融, 教育)(4)
	データサイエンス概論	第3世代のコンピューティング Watson の応用 (医療・ヘルスケア, エネルギー, セキュリティ)(5)
	データサイエンス概論	さらに広がる Watson と AI の世界 (スポーツ, ファッション, 映画, ゲーム, etc.)(6)
	データサイエンス概論	震災時におけるビッグデータの活用ーレジリエントな都市を目指して (9)
	データサイエンス概論	医療技術支援のためのビッグデータの活用 (11)

<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等) を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p> <p>※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当</p>	授業概要	
	<p>「データサイエンス概論」はデータサイエンスへの興味を促す導入講義であり、ビッグデータの分析技術や実際の適用事例を先に学びます。ビッグデータには、数値データだけでなく、テキストや映像、写真、音声といった、従来はデータ分析の対象になっていなかったものも含まれます。IBM WatsonなどのAIを使ってアプリケーションの作成も体験します。データサイエンスを学ぶモチベーションが沸く授業です。</p> <p>ビッグデータがその存在感を強め始めてから数年が経ちます。ソーシャル・ネットワークやスマートフォンの急激な普及によって、一般消費者が情報システムに気軽にアクセスし、生活の一部として大量のデータを利用・生成するようになりました。こうしたデータには人の言葉で書かれた「テキスト」の他、画像、映像、音声といった、従来集計の対象になっていなかったものが大量に含まれています。そして人々は、そのビッグデータからいかに多くの価値ある知見が得られるかということに興味を持ち始めました。また、コンピューターが思考しているように見え、人と自然に対話するシーンは、これまで多くの映画や小説の中に登場してきましたが、それらは今ビッグデータを活用しながら次第に現実のものとなってきています。本データサイエンス概論では、ビッグデータに関する様々な技術や適用事例をトピック毎に紹介して理解するとともに、実際にアプリケーションの作成を体験することを目標とします。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	データサイエンス概論	日々進化するサイバー・セキュリティーの世界(7)
	データサイエンス概論	コグニティブ時代のソーシャルとの向き合い方(8)

② プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「選択」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業科目名称
統計及び数理基礎	データサイエンス入門Ⅰ、データサイエンス入門Ⅱ
アルゴリズム基礎	データサイエンス概論、データサイエンス入門Ⅰ、データサイエンス入門Ⅱ
データ構造とプログラミング基礎	データサイエンス概論、データサイエンス入門Ⅰ、データサイエンス入門Ⅱ
時系列データ解析	データサイエンス入門Ⅰ、データサイエンス入門Ⅱ
テキスト解析	データサイエンス概論、データサイエンス・スキルアップ・プログラム
画像解析	データサイエンス概論、データサイエンス・スキルアップ・プログラム
データハンドリング	データサイエンス入門Ⅰ、データサイエンス入門Ⅱ、データサイエンス・スキルアップ・プログラム
データ活用実践(教師あり学習)	データサイエンス入門Ⅱ、データサイエンス・スキルアップ・プログラム
その他	データサイエンス・スキルアップ・プログラム□

③ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.seijo.ac.jp/education/support/cds3/>

④ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムは、データサイエンスの視点を持った文系人材を育成することを目的とし、プログラムの学修成果として、受講学生たちはデータドリブンな思考(データを起点とした論理的・科学的な思考)を身につけることができる。
 具体的には、①ビッグデータ等の多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を習得することができる。②代表的な統計学の解析手法や、数値化されていないデータを加工する手法等、データサイエンスを支える統計について、実践的な知識を習得することができる。③卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。④問題を発見し、データサイエンスを通じて解決する能力を高めることができる。

学校名：成城大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

成城大学データサイエンス教育研究センター規則

② 体制の目的

本学の運営母体である学校法人成城学園が創立100周年を機に「国際教育」「理数系教育」「情操・教養教育」を教育改革の「3つの柱」として推進することになった。これを受けて、本学でも数学的教養を通じて論理的な思考力を強化することを目的とした「理数系教育」を推進するにあたり、文系大学においても数理学科のリテラシーを持ち、各学部・学科の専門知識に加えて、データサイエンスの視点を兼ね備えた、次世代の社会を担う人材を育成すべく、平成27年度に日本IBM東京基礎研究所の協力を得て、データサイエンス科目群を全学共通教育科目に設置した。

その後、本学における当該分野の教育及び研究を強化し、データサイエンス人材育成という社会的要請にも応えるべく、学生が数学的及び科学的教養を踏まえてデータに基づき思考し行動する能力を培うことを目的とした「データサイエンス教育研究センター」を設置し、専任教員を配置した。

③ 具体的な構成員

データサイエンス教育研究センター内に、「データサイエンス教育研究センター委員会」を設置し、次の委員をもって構成・運営にあたる。

- (1) データサイエンス教育研究センター長（経済学部教授）
- (2) センター員（特別任用教授1名）
- (3) 経済学部長が推薦する経済学部専任教員1名
- (4) 文芸学部長が推薦する文芸学部専任教員1名
- (5) 法学部長が推薦する法学部専任教員1名
- (6) 社会イノベーション学部長が推薦する社会イノベーション学部専任教員1名

なお、委員長は会議運営のため、教務部長、図書館長、メディアネットワークセンター長、事務局長、その他委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

また、委員会の事務は事務局総務課（データサイエンス教育研究センター事務室）が担当し、委員会には総務課長およびセンター担当の総務課長補佐が出席する。

その他、外部アドバイザー委員を委嘱している（5名）。

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

各年度の履修者数（履修率）の目標を以下の通りとする。

令和3年度	1,350名（28%）	4月登録者数（学部開講科目繰り入れ済み。以下同じ）
令和4年度	1,500名（31%）	計画値（以下同じ）
令和5年度	1,600名（33%）	
令和6年度	1,700名（35%）	
令和7年度	1,800名（37%）	

令和3年1月にデータサイエンス教育研究センターが大学新校舎に移動し、4月から本格稼働となった。アクティブラーニングも可能なデータサイエンス科目群専用教室を作り、高性能コンピュータ等も導入した。さらに、シンボルとなる立体ロゴマークの制作・展示等、学生の関心を引く取り組みを行っており、さらなる履修者増加が期待出来る。

また、ディプロマへの門戸を広げるため、令和3年度より、学部開講科目の一部（例：経済学部・法学部開講科目の「経営統計学Ⅰ・Ⅱ」等）を修得することで、「データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ」を修得したものとして繰り入れる制度を導入した。これにより、ディプロマ修得希望者が増え、さらなる履修者増加が期待出来る。

なお、データサイエンス科目群はオンデマンドを含む遠隔授業を実施しているが、学生が教材を反復学習するため理解度が高いという利点もあり、今後も継続する方向で検討する。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

データサイエンス科目群は、全学共通教育科目として平成27年度から開講しており、全学部・全学年が履修出来る。希望する学生全員が受講可能となるように、「前提条件がないのが前提」との方針を設け、受講生のレベルを揃えるような事前のテスト等は実施していない。各学部・学科の授業を優先させる形で、曜日・時限の調整を可能な限り行っており、5時限も積極的に活用している。さらに、通年授業は行わず、前期・後期で同じ授業を展開し、なるべく多くの学生が受講しやすいように工夫している。1年次に履修出来なくても、2年次以降からも履修することが出来、所定の要件を充たした学生にはディプロマ修了証を授与している。また、データサイエンス科目群はオンデマンドを含む遠隔授業を実施しており、学生が教材を繰り返し視聴することが出来、学生・教員間の個別コミュニケーションが促進されるという利点があり、今後も継続する方向で検討する。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

4月に新生及び在学生向けにデータサイエンス科目ガイダンスを開催している。ガイダンス後も、新たに作成した動画を本学LMS(WebClass)に継続的に掲載し、情報発信している。

また、大学ウェブサイトやセンターで運営するフェイスブックで情報発信している。

令和3年4月から本格稼働となった新校舎には、アクティブラーニングも可能なデータサイエンス科目群専用教室、高性能コンピュータがあり、シンボルとなる立体ロゴマークの制作・展示等、学生の関心を引く取り組みを行っており、さらなる履修者増加が期待出来る。

この他、学部デーを利用して、学生有志(学友会厚生部)によるデータサイエンス授業を語る場があり、先輩から後輩へと受け継がれている。

また、今年度からデータサイエンスを活用した企画力、データ分析力、問題解決能力、発信力等のスキルを育成することを目的として「学内DSコンテスト」を開催するので、ここでも学生への周知が期待できる。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、毎年4月に教務部による「履修相談会」が開催され、学生と教務部職員がマンツーマンで履修相談を行ってきた。センターとしても、4月に新入生向け、在学生向けにデータサイエンス科目ガイダンスを開催している。ガイダンス後も、新たに作成した動画を本学LMS(WebClass)に継続的に掲載し、情報発信している。加えて、大学ウェブサイトやセンターで運営しているフェイスブックで情報発信している。さらに、データサイエンス科目群をさらに発展させるため、令和元年4月に「データサイエンス教育研究センター」を設置し、専任教員(特別任用教授)を採用し、学生指導等の中心を担っている。令和3年1月には大学新校舎にセンターが移転した。新校舎にはデータサイエンス科目群専用教室を作り、学生同士が共創出来る場を設けた。また、教室に隣接してデータサイエンス担当教員研究室があり、綿密な学生指導等を行う環境が整った。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

毎回の授業終了時にリアクションペーパーを提出させており、そこでの質疑応答や、メール等での質疑応答により、授業時間外での学習指導や質問を受け付けている。授業終了後も、資料を WebClass (LMS) に掲載し続け、いつでも見直せるようにしてあり、メールで予約のうえ時間と場所にとらわれずに学生を指導している。一例として、Zoomを活用して、土曜・日曜でも学生の個別相談に対応している。令和3年4月から稼働を開始した新校舎では、データサイエンス科目群専用教室に隣接してデータサイエンス担当教員研究室があり、そちらに教員が待機して学生指導等を行える環境が整った。また、正課外教育に係る指導の一例として、企業が行う各種ビジネスコンテストやデータ解析コンテスト、特定技術に興味をもつプログラマーが集まり、短期間で集中的にソフトウェアの共同開発等を競うイベントであるハッカソン参加者への個別サポートも適宜行っている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>データサイエンス教育研究センター委員会にて、毎年度のデータサイエンス科目群の履修状況を調査し、適切な開講コマ数等を検討し、本プログラムの運営に係る検証を行っている。</p> <p>なお、平成27年度開始時から令和3年度までの7年間で、履修者数は約4倍に増えている。なお、単位修得率は87%と高い状況である。</p> <p>ディプロマ授与数も、31件(基礎力ディプロマ26件、EMSディプロマ5件)となった。</p> <p>なお、ディプロマへの門戸を広げるため、令和3年度より、学部開講科目の一部を修得することで、「データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ」を修得したのものとして繰り入れる制度を導入した。これにより、ディプロマ授与数増加が期待出来る。</p>
学修成果	<p>本学では、より優れた教育の実現を迫及するための手段の一つとして、授業と関連する状況の可視化を行っており、その一環として、毎年2回にかけて履修する学生全員を対象にする「授業改善アンケート」を実施している。</p> <p>令和2年度前期のアンケート結果では、データサイエンス科目群は、本学ホームページに公開している12項目すべてで大学全体の平均値(5点満点)を上回っている。中でも「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」という設問で、大学全体の平均値が3.98に対して、データサイエンス科目群は4.58であり、データサイエンス科目群の受講学生の満足度と理解度の高さを伺い知ることが出来る。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>先述の「授業改善アンケート」の中に、「この授業を通じて、下記の各資質・能力のうち、どの項目が身につきましたか。身についた資質・能力をすべてマークしてください。」という設問があり、データサイエンス科目群履修学生は、本アンケートの大学全体の平均値よりも、以下の項目で「身についた」と回答した割合が高かった。</p> <p>①この分野の知識、学力、②数理的能力、③構想力、④柔軟な発想力、⑤俯瞰力、⑥課題発見力、⑦課題解決力、⑧協働力。</p> <p>中でも、②数理的能力(大学全体平均値6.5%に対して27.4%)、⑤俯瞰力(大学全体平均値8.9%に対して17.7%)、⑥課題発見力(大学全体平均値9.8%に対して17.7%)の割合が特に高かった。</p>

<p>学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>先述の「授業改善アンケート」は大学ホームページに掲載されており、全学生が確認することが出来る。講義内でも担当教員がアンケート内容をアナウンスすることにより、講義受講の推奨に活用している。他にも、学部データを利用して、学生有志(学友会厚生部)によるデータサイエンス授業を語る場があり、先輩から後輩へと大切なことが受け継がれている。また、ディプロマ修了者が大学案内等の各種パンフレットにロールモデルとして登場して、データサイエンス科目群について率直な感想を述べていることも、在学生の講義受講に繋がっている。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>データサイエンス科目群(6科目)について、開講以降、履修者(当年度延べ人数)は以下の様に順調に増えている。</p> <p>平成27年度 175名 平成28年度 138名 平成29年度 190名 平成30年度 292名 令和元年度 359名 令和2年度 558名 令和3年度 693名</p> <p>令和3年度より、ディプロマへの門戸を広げるため、学部開講科目の一部を修得することで、「データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ」を修得したものととして繰り入れる制度を導入したので、ディプロマ授与希望者及び履修者増加が期待出来る。</p> <p>データサイエンス科目群はオンデマンドを含む遠隔授業を実施しており、学生が教材を繰り返し視聴出来、学生・教員間の個別コミュニケーションが促進される等の利点があり、今後も継続したい。</p>
<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>一例として、キャリアセンターと連携して、ディプロマ修了者の就職先を確認し、数年後に就職先に対して活躍状況や評価等を照会する仕組みを検討している。</p> <p>本プログラム履修者を含んだ学生5名が、株式会社マクロミル主催の学生向け「マーケティング戦略立案コンテスト『EDGE』2019」に参加し、優勝した。</p> <p>当該5名は「大規模な社会・経済データ(ビッグデータ)の分析」をテーマとするゼミ生で、経済学部経営学科の授業で学んだマーケティングの専門知識とともに、データサイエンスの学びも活かした成果だった。</p> <p>当該5名のうち2名は、このコンテストの参加企業から高い評価を受け、結果として当該企業への就職を果たした。</p>

<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>外部アドバイザー委員から、定期的にセンターの活動及び運営に助言を受ける機会を設けており、「統計学に偏らず、データサイエンスの構成要素として重要な AI、画像処理、テキストマイニング等にもバランスよく取り組まれていることが評価出来る。」との意見をいただいた。 委員の構成は以下の通りである。 1) 一般社団法人ピープルアナリティクス & HRテクノロジー協会ピープルアナリスト 2) 大阪大学社会技術共創研究センター准教授 3) 株式会社野村総合研究所金融ITイノベーション事業本部NRI認定データサイエンティスト 4) 楽天株式会社グローバルデータ統括部データサイエンス部・リサーチサイエンティスト 5) 琉球大学国際地域創造学部准教授</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>特に本プログラムの導入科目でもある「データサイエンス概論」では、文系学生の理数系科目に対する苦手意識に留意し、毎授業、なるべく多くの事例を映像として YouTube などから厳選し、授業で紹介している。このことにより、「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」が体感的に進むように工夫している。また、ロボットや便利なアプリ等も紹介し、学生が実際に使ってみて、使い勝手などを評論する、といったことも行っている。 授業以外では、現役データサイエンティストによるシンポジウムやワークショップを開催し、学生が数理・データサイエンス・AIに触れる機会を積極的に設けている。 また、今年度からは「学内DSコンテスト」を開始する。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>データサイエンスに関して専門的識見を有する、学外の企業、行政機関若しくは各種団体の関係者、又は他の研究教育機関の研究者等から成る外部アドバイザー委員から、定期的にセンターの活動及び運営に助言を受ける機会を設けている。 日本IBM東京基礎研究所との包括的な連携協定に基づき、本学のデータサイエンス科目群は平成27(2015)年度に開講された。この時の日本IBMの中心人物をセンター所属の特別任用教授として迎え、一例として、数式はなるべく使わない方針で、文系学生に苦手意識を持たせない工夫をして授業を展開している。 なお、学生の反応は、上述の「授業改善アンケート」の高評価からも伺うことが出来る。</p>

※公表している場合のアドレス

② 自己点検・評価体制における意見等の公表の有無 有

<https://www.seiio.ac.jp/education/support/cds3/link/itmo4200000107q8-att/itmo4200000107sg.pdf>

データサイエンス概論 人間とコンピューターの新たな関係を築くビッグデータの活用

⑤

⑥ 担当教員	実施学期	単位数	配当	曜日・時限	教室名	授業コード
辻 智 (つじ さとし)	前期	2	全 1-4	水 5		6955

③	<p>授業の内容</p> <p>ビッグデータが一般に用いられるようになったのは、2010年代前半からである。その背景には、センサー技術の進歩によるデータの大量発生、クラウド技術の普及によるデータの共有化、ビッグデータ分析技術の発展によるデータの活用などが挙げられる。本授業では、ビッグデータの活用に関する基礎知識を習得し、実際にビッグデータ分析を行う体験を行う。また、ビッグデータの活用に関する倫理やセキュリティについても学ぶ。</p>
①	<p>到達目標</p> <p>・ビッグデータの適用技術や応用技術を広範囲に学び、それらの利点や問題点がわかり、理解した内容を説明することができる。</p> <p>・データサイエンスとして初歩の知識が身に付くので、今後どのようにビッグデータを活用していくべきか議論する力を伸ばす。</p> <p>・授業開始前には簡単なプログラムを作成できるようになります。</p>
②	<p>授業の方法</p> <p>・パワーポイントによる資料投影を中心とした講義形式で行います。その際、ビデオ資料投影も盛り込み、映像と音声により臨場感を出し、体感的に理解が進むようにします。</p> <p>・ハンズオンでは、実際に教室の卓上からクラウドにアクセスして、演習を行います。</p>
④	<p>授業の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本コース全体ガイドおよびデータサイエンスを取り巻く環境 2. AI ブームの再燃：IBM Watson の誕生 3. 社会やビジネスを大きく変える第3世代のコンピューティング 4. 第3世代のコンピューティング Watson の応用（マーケティング、金融、教育） 5. 第3世代のコンピューティング Watson の応用（医療・ヘルスケア、エネルギー、セキュリティー） 6. さらに広がる Watson と AI の世界（スポーツ、ファッション、映画、ゲーム、etc.） 7. 日々進化するサイバー・セキュリティーの世界 8. コグニティブ時代のソーシャルとの向き合い方 9. 震災時におけるビッグデータの活用－レジリエントな都市を目指して 10. 地域活性化に向けたビッグデータの活用－RESAS 地域経済分析システム 11. 医療技術支援のためのビッグデータの活用 12. 社会に浸透するロボットの利活用 13. Python によるプログラミング体験 14. ビッグデータ時代の新しいクラウド（実際に登録してみよう） 15. 新しいクラウドによるアプリケーション作成体験 Cloud Hands-On <p>2～15は都合により内容や順番が次の Reserved Topics と替わる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の音声データをビジネスに生かす音声認識－音声ビッグデータの活用の広がり ・モノのインターネット (IoT: Internet of Things) ・革新的な技術－ブロックチェーン ・課題解決に導くプロジェクトマネジメント ・斬新な解決法を生み出すデザイン思考 ・アニメとコグニティブ・コンピューティングとのいい関係！? ・社会インフラ（金融・交通など）のシステムを支え続けるメインフレーム（汎用大型コンピューター） ・画像解析応用とマルチモーダルマイニングの世界 <p>など。</p> <p>授業時間外の学修(予習・復習等)</p> <p>授業中に適宜、関連情報を知らせるので、Webなどで必ず予習・復習すること。</p>
⑦	<p>成績評価の基準と方法</p> <p>授業中に実施する小テスト(80%) コース終了後に提出するレポート点(20%)</p> <p>教科書</p> <p>教科書は使用しません。</p> <p>参考文献</p> <p>授業中に適宜紹介します。</p> <p>履修者への要望</p> <p>スマホ操作のみならず、ノートブックPCなどのキーボード操作および電子メールの送受信操作ができること。</p> <p>教員との連絡・相談方法</p> <p>相談可能場所：法人事務局棟 2F 研究室 相談可能時間：金曜日 4限 (14:40-16:10) の時間帯</p> <p>メールアドレスは授業内で知らせます。</p>

データサイエンス入門 I

データサイエンスのための統計学入門 I

⑤

⑥ 担当教員	実施学期	単位数	配当	曜日・時限	教室名	授業コード
森 由美 (もり ゆみ)	前期	2	全 1-4	木 3		6950

③ 授業の内容
<p>実際のデータを扱う際の注意点を、事前に講義で説明し、授業中に実践的な演習を通じて理解を深め、最終的にレポートや発表などの課題を通じて応用能力を身につける。</p>
① 到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・記述統計の基礎的な知識・技法を理解することで、問題・課題点を発掘し、その基礎に戻りながら、解決策や行動指針を考案できる。 ・オープンソースのデータ分析ツール（Excel, SPSS, Python）の操作を行うことができる。 ・データソースを分析して、データの特性や関連性を説明できるようになる。
② 授業の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の資料を毎回配布し、プロジェクターによる資料投影を中心とした講義形式にて進める。 ・毎回、実習の時間も設け、実際に教室の卓上で Excel, SPSS, Python などの簡単にデータ分析を実行できるツールの操作を行う。また、リアルタイムによるプログラミングも体験する。 ・適宜、人型ロボットによるプレゼンテーションやビデオ資料投影も盛り込み、映像と音声により臨場感を出し、体感的に理解が進むようにする。
④ 授業の計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. インTRODクシヨン：データ解析の目的と統計学の役割、ビッグデータの利用 2. データについての基礎、図表やグラフによるデータの可視化 3. 時系列データの分析 4. 基本統計量（平均値、中央値、最頻値、最小値、最大値） 5. データ分布の散らばりの可視化（度数分布、ヒストグラム） 6. データ分布の散らばりの可視化（箱ひげ図） 7. データ分布の散らばりの指標（分散、標準偏差） 8. 2変数の関係性の可視化（散布図） 9. 2変数の関係性の指標（相関係数） 10. 2変数の関係性の分析（回帰分析） 11. 3変数以上の関係性の分析（重回帰分析） 12. オープンデータの利活用 13. データのクレンジングと加工 14. 応用演習 15. まとめ <p>授業後にアンケートをとり、皆さんの理解度や興味等を加味しながら授業を進める。</p>
<p>授業時間外の学修(予習・復習等)</p> <p>予習では、テーマのポイントをチェックし、独力で理解できる部分とそうでない部分を意識の上、講義に臨むこと。復習では、配布された資料に記載された内容を再チェックし、知識として定着させること。</p>
⑦ 成績評価の基準と方法
<p>定期試験の得点(50%) 授業への参加度(50%)</p> <p>授業中の積極的な発言を高く評価する。</p>
<p>教科書</p> <p>教科書は使用しない。</p>
<p>参考文献</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>
<p>履修者への要望</p> <p>内容の把握は勿論のこと、事象の背景を含めた本質についての基本的な理解を期待する。そのためにも、授業中の質疑応答への積極的な参加を求める。</p>
<p>教員との連絡・相談方法</p> <p>相談可能場所：法人棟 2F 研究室 相談可能時間：火曜日午後</p> <p>電子メール。メールアドレスは授業内で知らせる。</p>

データサイエンス入門Ⅱ

データサイエンスのための統計学入門Ⅱ

⑤

⑥ 担当教員	実施学期	単位数	配当	曜日・時限	教室名	授業コード
辻 智 (つじ さとし)	前期	2	全 2-4	金 3		6965

③	<p>授業の内容</p> <p>実際のデータを扱う際の注意点を踏まえ、データサイエンスの基礎から応用までを体系的に学び、データ分析のスキルを身につける。授業では、データサイエンスの基礎から応用までを体系的に学び、データ分析のスキルを身につける。授業では、データサイエンスの基礎から応用までを体系的に学び、データ分析のスキルを身につける。</p>
①	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得られたデータに対して推測統計の様々な技法を駆使することで、分析結果による科学的な意思決定をすることができる。 ・オープンデータを活用して、データの推定や検定を自らできるようになる。 ・データを偏りなく正確に分析できる客観的な分析スキルを身につけることができる。
②	<p>授業の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容の資料を毎回配布し、プロジェクターによる資料投影を中心とした講義形式にて進める。 ・毎回、実際の授業時間にも設け、実際に教室の卓上で Excel, SPSS, Python などの簡単なデータ分析を実行できるツールの操作を行う。また、ビジュアル言語によるプログラミングも体験する。 ・課題演習を通じて理解を深めつつ、質問を投げかけながら、アクティブラーニング形式も採り入れる。
④	<p>授業の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本コース全体ガイド：データ解析の目的と統計学の役割、ビッグデータ利活用の全体像 2. データについての基礎：基本統計量およびグラフによる可視化 3. サンプルと推定：標本分布の概念、統計指標の点推定・区間推定 4. 2つの量の関係：相関分析と単回帰分析 5. 仮説と検定：1つの母集団 6. 仮説と検定：2つの母集団 7. 分散分析：3つ以上の水準間の平均値の差の検定 8. 多変量の分析：重回帰分析を含む回帰モデル 9. 多変量の分析：主成分分析（少ない次元で説明する） 10. 多変量の分析：因子分析（少ない次元で説明する） 11. ベイズ推論 12. 機械学習による多変量分析：K-Means 法によるクラスタリング 13. 機械学習による多変量分析：決定木分析 14. 機械学習による多変量分析：サポート・ベクター・マシン 15. 時系列データの分析 <p>授業時間外の学修(予習・復習等)</p> <p>予習では、テーマのポイントをチェックし、独力で理解できる部分とそうでない部分を意識の上、講義に臨むこと。復習では、配布された資料に記載された内容を再チェックし、知識として定着させること。</p>
⑦	<p>成績評価の基準と方法</p> <p>定期試験の得点(50%) 授業への参加度(50%)</p> <p>授業中の積極的な発言を高く評価する。</p> <p>教科書</p> <p>教科書は使用しない。</p> <p>参考文献</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p> <p>履修者への要望</p> <p>内容の把握は勿論のこと、事象の背景を含めた本質についての基本的な理解を期待する。そのためにも、授業中の質疑応答への積極的な参加を求める。</p> <p>教員との連絡・相談方法</p> <p>相談可能場所：法人棟 2 F 研究室 相談可能時間：金曜日 4 限 (14:40-16:10) の時間帯</p> <p>電子メール。メールアドレスは授業内で知らせる。</p>

データサイエンス・スキルアップ・プログラミング

クラウド型データ分析ツール（自然言語と視覚化による分析&対話インターフェース）と分身ロボットのプログラミング

⑤

⑥ 担当教員	実施学期	単位数	配当	曜日・時限	教室名	授業コード
辻 智（つじ さとし）	前期	2	全 2-4	金 1		6972

【実務経験のある教員等による授業科目】

③	<p>授業の内容</p> <p>ビッグデータの重要性がますます高まっている。データ分析の役割を自分自身で果たすことができるようになる。データ分析の成果を効果的に伝えることができるようになる。データ分析の成果を効果的に伝えることができるようになる。</p>
①	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウド上の分析ツールを用いて、データをインタラクティブかつビジュアルに分析し、ツールの予測分析機能などを用いて、説得力のあるレポートを作成できるようにする。 ・簡単なビジュアル言語のプログラミングを駆使して、人型ロボットに自分の分身としてプレゼンテーションさせることができるようになる。 ・ロボットのプログラミングを通して、論理的な思考ができるようになる。 ・IT関連の社員との交流や企業見学を通して、最新技術をイメージできるようになる。
②	<p>授業の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の卓上からクラウド上の分析ツールにアクセスして、データ分析を行う実習（ハンズオン）を行う。 ・データ分析および使用するツールについての講義およびデータ分析に関わる企業の社員との交流や施設の見学も適宜行う。 ・人型ロボットの操作のために、簡単なビジュアル言語である Scratch, Robo Blocks, ロボピッチなどを用いてプログラミングし、試行錯誤しながら実際にロボットを動かしてみる。 ・Python を様々なクラウド経由で活用してみる。
④	<p>授業の計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本コース全体ガイド&各種ユーザー登録 2. 世界のビッグデータソース・データ分析ツール&データサイエンティスト・コミュニティ 3. クラウド型データ分析ツールのハンズオン 4. ロボット操作のための基本プログラミング・ハンズオン 5. IT 関連企業見学会・会社紹介 6. IT 関連企業見学会・館内見学 7. IT 関連企業見学会・社員との交流 8. レポート課題の検討・選定 9. クラウド型データ分析ツールを用いたレポート課題のための試分析 10. クラウド型データ分析ツールを用いたレポート課題のための本分析 11. 人型ロボットのプログラミング・ハンズオン 12. 人型ロボットを用いたプレゼンテーションの作成 13. 人型ロボットを用いたプレゼンテーションの調整 14. 人型ロボットを用いたプレゼンテーションのリハーサル 15. 人型ロボットを用いた最終プレゼンテーション発表会 <p>このコースは例年夏の集中講義として実施されているが、今年度は夏の東京オリンピックの関係で、毎週金曜1限の授業として開講する。5～7の授業は、毎年IT関連の企業見学に出かけているが、今年度はIT企業の社員を招いた交流とする。</p>
	<p>授業時間外の学修(予習・復習等)</p> <p>予習では、テーマのポイントをチェックし、独力で理解できる部分とそうでない部分を意識の上、授業に参加すること。</p> <p>復習では、配布された資料に記載された内容を再チェックし、知識として定着させること。</p>
⑦	<p>成績評価の基準と方法</p> <p>授業への参加度(50%) 実習成果発表(50%)</p> <p>授業への参加度については、実習への取り組みおよび積極的な質問や発言を評価する。実習成果発表では、レポート内容の有用性、信頼性、明瞭性および分身ロボット操作の正確性を評価する。</p>
	<p>教科書</p> <p>教科書は使用しない。</p>
	<p>参考文献</p> <p>授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>履修者への要望</p>
	<p>教員との連絡・相談方法</p> <p>相談可能場所:法人棟 2F 研究室 相談可能時間:金曜日 4限 (14:40-16:10) の時間帯</p>

電子メール。メールアドレスは授業内で知らせる。

全学共通教育科目

I	全学共通教育の理念	148
II	全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	152

I

全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

上記の理念に基づき、以下[A]～[F]の科目群を開設している。各学部カリキュラム上の位置づけは、以下の通り。

学 部	分 野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A

リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉強は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉強は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

WRD科目の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力(情報受信発信能力)やプレゼンテーション能力(表現能力)を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
 また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
 IT科目の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
 総合科目の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
 成城学の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

3 系列科目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。
 系列科目の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。キャリア科目群の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。成城大学就業力育成・認定プログラムの認定要件については、p.152 第1表に示されている。

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。国際交流科目群の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.152 第2表に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.152 第3表に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.151に掲載箇所が示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目はp.151に掲載箇所が示されている。

各科目群開設科目の掲載箇所一覧

		経済学科		経営学科	
		2017年度以降 入学者	2016年度以前 入学者	2017年度以降 入学者	2016年度以前 入学者
A)リテラシー科目群	1 WRD	P.43 第16表	P.107 第16表	P.75 第16表	P.134 第16表
	2 外国語科目	P.48 第21表	P.107 第16表	P.75 第16表	P.134 第16表
	3 IT科目	P.43 第16表	P.107 第16表	P.75 第16表	P.134 第16表
B)教養科目群	1 総合科目	P.50 第22表	P.109 第17表	P.77 第17表	P.136 第17表
	2 成城学	P.50 第22表	P.109 第17表	P.77 第17表	P.136 第17表
	3 系列科目	推奨科目 P.43 第17表 一般科目 P.50 第22表	自由設計科目 P.109 第17表	教養科目 P.77 第17表	教養科目 P.136 第17表
C)キャリアデザイン科目群		P.44 第18表	P.111 第18表	P.79 第18表	P.139 第18表
D)国際交流科目群		P.45 第19表	P.112 第19表	P.80 第19表	P.140 第19表
E)データサイエンス科目群		P.47 第20表	P.114 第20表	P.82 第20表	P.142 第20表
F)スポーツ・ウェルネス教育科目		P.52 第23表	P.115 第21表	P.83 第21表	P.143 第21表

II

全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（P.150）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて4月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第1表 成城大学就業力育成・認定プログラム（2017年度以降入学用）

就業力 ディプロマ 取得要件	EMS 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
4単位以上	4単位以上	キャリア形成Ⅰ	1～4	2
		キャリア形成Ⅱ	1～4	2
		キャリア形成Ⅲ	1～4	2
		キャリア形成Ⅳ	1～4	2
2単位以上	2単位以上	プロジェクト演習	1・2	2
		成城インターンシップ	経文法1～4	2
6単位	6単位	業界企業分析	2～4	2
		職業選択	2～4	2
		キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
	2単位	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
2単位以上	2単位以上	時事英語Ⅰ	1～4	2
		時事英語Ⅱ	1～4	2
		時事問題研究	2～4	2

※ 2016年度以前入学用者のプログラムについては、キャリアセンターに確認すること。

第2表 SIEP（成城国際教育プログラム）

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次	単位
SIEPコア科目 (必須)	留学準備演習	1～4	2
SIEP選択科目 (8単位以上)	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/2～4	1
	英語等による地域研究科目：Area Studies (European Studies, North American Studies, Oceanian Studies, Asian Studies)	1～4	2
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4	2
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4	2
	海外短期語学研修（春季/夏季）	(春季)*注1) (夏季)1～4	2
	海外短期語学研修（就業体験準備）	1～4	1
	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
	成城インターンシップ〈成城グローバルインターンシップ・プログラム〉 《全学共通教育科目 キャリアデザイン科目群》	経文法1～4 注2)	2

注1) 配当年次*印の科目は、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。

注2) 社会イノベーション学部所属する学生は、同プログラムへの参加により、「OCA（配当：社2～4）」を修得すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム

	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
		○	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	○	○	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
		○	データサイエンスアドバンスド・プログラム	2～4	2

【成城大学文芸学部「2020年度履修の手引」抜粋】

全学共通教育科目

I	全学共通教育の理念	132
II	全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	136

I

全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

上記の理念に基づき、以下[A]～[F]の科目群を開設している。各学部カリキュラムの位置づけは、以下の通り。

学 部	分 野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A

リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉強は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉強は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

WRD科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力(情報受信発信能力)やプレゼンテーション能力(表現能力)を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。

また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。

IT科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。

総合科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。

成城学の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

3 系列科目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。系列科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。キャリア科目群の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。成城大学就業力育成・認定プログラムの認定要件については、p.136 第1表に示されている。

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。国際交流科目群の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.136 第2表に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.136 第3表に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目は、p.135に掲載箇所が示されている。

各科目群開設科目の掲載箇所一覧

		2017年度以降 入学者	2015・2016年度 入学者	
A リテラシー科目群	1 WRD	P.50	P.92	
	2 外国語科目	全学共通外国語	P.63 第13表	P.103 第10表
		ディプロム・コース	P.64 第14表	P.105 第11表
	3 IT科目	P.55 第5表	P.108~109 第15表	
B 教養科目群	1 総合科目	P.51 第2表	P.93 第2表	
	2 成城学	P.51 第2表	P.93 第2表	
	3 系列科目	P.51 第2表	P.93 第2表	
C キャリアデザイン科目群		P.65 第16表	P.110 第16表	
D 国際交流科目群		P.53 第3表	P.95 第3表	
E データサイエンス科目群		P.54 第4表	P.96 第4表	
F スポーツ・ウエルネス 教育科目	1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目	P.52 第2表	P.111 第17表	
	2 スポーツ・ウエルネス実技科目	P.55 第6表	P.106 第13表	

II

全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（p.134）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて4月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第1表 成城大学就業力育成・認定プログラム（2017年度以降入学用）

就業力 ディプロマ 取得要件	EMS 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
4単位以上	4単位以上	キャリア形成Ⅰ	1～4	2
		キャリア形成Ⅱ	1～4	2
		キャリア形成Ⅲ	1～4	2
		キャリア形成Ⅳ	1～4	2
2単位以上	2単位以上	プロジェクト演習	1・2	2
		成城インターンシップ	経文法1～4	2
6単位	6単位	業界企業分析	2～4	2
		職業選択	2～4	2
		キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
	2単位	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
2単位以上	2単位以上	時事英語Ⅰ	1～4	2
		時事英語Ⅱ	1～4	2
		時事問題研究	2～4	2

※ 2016年度以前入学用のプログラムについては、キャリアセンターに確認すること。

第2表 SIEP（成城国際教育プログラム）

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次	単位
SIEPコア科目 (必須)	留学準備演習	1～4	2
SIEP選択科目 (8単位以上)	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/2～4	1
	英語等による地域研究科目：Area Studies 〔European Studies, North American Studies, Oceanian Studies, Asian Studies〕	1～4	2
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4	2
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4	2
	海外短期語学研修（春季/夏季）	(春季)*注1) (夏季)1～4	2
	海外短期語学研修（就業体験準備）	1～4	1
	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
	成城インターンシップ（成城グローバルインターンシップ・プログラム） 《全学共通教育科目 キャリアデザイン科目群》	経文法1～4 注2)	2

注1) 配当年次*印の科目は、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。

注2) 社会イノベーション学部 に所属する学生は、同プログラムへの参加により、「OCA（配当：社2～4）」を修得すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム

	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
		○	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	○	○	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
		○	データサイエンスアドバンスド・プログラム	2～4	2

【成城大学法学部「2020年度履修の手引」抜粋】

全学共通教育科目

I	全学共通教育の理念	58
II	全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	61

I

全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

上記の理念に基づき、以下[A]～[F]の科目群を開設している。各学部カリキュラム上の位置づけは、以下の通り。

学 部	分 野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A

リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉強は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉強は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

WRD科目の開設科目は、p.32 第6表に示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、p.41 第11表に示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力(情報受信発信能力)やプレゼンテーション能力(表現能力)を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
 また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
 IT科目の開設科目は、p.32 第6表に示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
 総合科目の開設科目は、p.32 第6表に示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
 成城学の開設科目は、p.32 第6表に示されている。

3 系列科目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部での専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。
 系列科目の開設科目は、p.32 第6表に示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。キャリア科目群の開設科目は、p.44 第12表に示されている。成城大学就業力育成・認定プログラムの認定要件については、p.61 第1表に示されている。

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。国際交流科目群の開設科目は、p.34 第6表に示されている。成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.61 第2表に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、p.45 第13表に示されている。データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.61 第3表に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.46 第14表に示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目は、p.46 第14表に示されている。

II

全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（p.60）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて4月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第1表 成城大学就業力育成・認定プログラム（2017年度以降入学者用）

就業力 ディプロマ 取得要件	EMS 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
4単位以上	4単位以上	キャリア形成Ⅰ	1～4	2
		キャリア形成Ⅱ	1～4	2
		キャリア形成Ⅲ	1～4	2
		キャリア形成Ⅳ	1～4	2
2単位以上	2単位以上	プロジェクト演習	1・2	2
		成城インターンシップ	経文法1～4	2
6単位	6単位	業界企業分析	2～4	2
		職業選択	2～4	2
		キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
	2単位	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
2単位以上	2単位以上	時事英語Ⅰ	1～4	2
		時事英語Ⅱ	1～4	2
		時事問題研究	2～4	2

※ 2016年度以前入学者用のプログラムについては、キャリアセンターに確認すること。

第2表 SIEP（成城国際教育プログラム）

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次	単位
SIEPコア科目 (必須)	留学準備演習	1～4	2
SIEP選択科目 (8単位以上)	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/2～4	1
	英語等による地域研究科目：Area Studies 〔European Studies, North American Studies, Oceanian Studies, Asian Studies〕	1～4	2
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4	2
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4	2
	海外短期語学研修（春季/夏季）	(春季)*注1) (夏季)1～4	2
	海外短期語学研修（就業体験準備）	1～4	1
	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
	成城インターンシップ〈成城グローバルインターンシップ・プログラム〉 《全学共通教育科目 キャリアデザイン科目群》	経文法1～4注2)	2

注1) 配当年次*印の科目は、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。

注2) 社会イノベーション学部所属する学生は、同プログラムへの参加により、「OCA（担当：社2～4）」を修得すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム

	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
		○	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	○	○	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
		○	データサイエンスアドバンスド・プログラム	2～4	2

全学共通教育科目

I	全学共通教育の理念	126
II	全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件	130

I

全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

上記の理念に基づき、以下[A]～[F]の科目群を開設している。各学部カリキュラムの位置づけは、以下の通り。

学 部	分 野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

A

リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

1 WRD

高等学校までの勉強は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉強は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。

WRD科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

3 IT科目

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力(情報受信発信能力)やプレゼンテーション能力(表現能力)を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報

の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。
 また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。
 IT科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

B 教養科目群

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

1 総合科目

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。
 総合科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

2 成城学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。
 成城学の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

3 系列科目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部での専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。
 系列科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

《系列の概要》

系列名	概要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

C キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。キャリア科目群の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。成城大学就業力育成・認定プログラムの認定要件については、p.130 第1表に示されている。

D 国際交流科目群

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（IELTS等試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就業体験を希望する者は、*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。国際交流科目群の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。成城国際教育プログラム（SIEP）の修了要件については、p.130 第2表に示されている。

E データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、履修者は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

データサイエンス基礎力育成・認定プログラムのディプロマ取得要件については、p.130 第3表に示されている。

F スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

2 スポーツ・ウエルネス実技科目

スポーツ・ウエルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、年次、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。スポーツ・ウエルネス実技科目の開設科目は、p.129に掲載箇所が示されている。

各科目群開設科目の掲載箇所一覧

			政策イノベーション学科		心理社会学科	
			2016年度以降 入学者	2015年度以前 入学者	2016年度以降 入学者	2015年度以前 入学者
A)リテラシー 科目群	1 WRD		P.45 第16表	P.93 第16表	P.69 第16表	P.117 第16表
	2 外国語 科目		P.41 第13表	P.89 第13表	P.65 第13表	P.113 第13表
		卒業要件外		P.50	P.98	P.74
	3 IT科目		P.45 第15表	P.93 第15表	P.69 第15表	P.117 第15表
B)教養科目群	1 総合科目		P.37 第12表	P.85 第12表	P.61 第12表	P.109 第12表
	2 成城学		P.37 第12表	P.85 第12表	P.61 第12表	P.109 第12表
	3 系列科目		P.37 第12表	P.85 第12表	P.61 第12表	P.109 第12表
C)キャリアデザイン科目群			P.45 第17表	P.93 第17表	P.69 第17表	P.117 第17表
	卒業要件外		P.50	P.98	P.74	P.122
D)国際交流科目群		【総合教養科目】	P.39 第12表	P.87 第12表	P.63 第12表	P.111 第12表
		【学部共通科目】	P.41 第13表	P.89 第13表	P.65 第13表	P.113 第13表
		卒業要件外	P.50	P.98	P.74	P.122
E)データサイエンス科目群			P.39 第12表	P.87 第12表	P.63 第12表	P.111 第12表
F)スポーツ・ウエルネス教育科目			P.44 第14表	P.92 第14表	P.68 第14表	P.116 第14表

Ⅱ

全学共通教育科目における 各種プログラム認定・修了要件

全学共通教育科目のうち、キャリアデザイン科目群、国際交流科目群、データサイエンス科目群では、各科目群の理念（p.128）に基づいて系統的な学びを促すとともに、独自の認定・修了要件を設けたプログラムを用意している。プログラム登録等の詳細については、各センターにて4月に開催するガイダンスに出席するか、直接問い合わせること。また、以下の科目の中には**卒業要件に含まれない科目もある**ため、主体的に中長期的な履修計画を立て、修得を進めていくことが肝要である。

第1表 成城大学就業力育成・認定プログラム（2017年度以降入学者用）

就業力 ディプロマ 取得要件	EMS 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
4単位以上	4単位以上	キャリア形成Ⅰ	1～4	2
		キャリア形成Ⅱ	1～4	2
		キャリア形成Ⅲ	1～4	2
		キャリア形成Ⅳ	1～4	2
2単位以上	2単位以上	プロジェクト演習	1・2	2
		成城インターンシップ	経文法1～4	2
6単位	6単位	業界企業分析	2～4	2
		職業選択	2～4	2
		キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
	2単位	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
2単位以上	2単位以上	時事英語Ⅰ	1～4	2
		時事英語Ⅱ	1～4	2
		時事問題研究	2～4	2

※ 2016年度以前入学者用のプログラムについては、キャリアセンターに確認すること。

第2表 SIEP（成城国際教育プログラム）

修了要件	科目区分・授業科目	配当年次	単位
SIEPコア科目 (必須)	留学準備演習	1～4	2
SIEP選択科目 (8単位以上)	留学対策科目〔Academic Skills〕	1～4/2～4	1
	英語等による地域研究科目：Area Studies 〔European Studies, North American Studies, Oceanian Studies, Asian Studies〕	1～4	2
	英語等による日本事情関係科目〔Japan Studies〕	1～4	2
	英語等による特定のテーマを扱った科目〔Special Topics〕	1～4	2
	海外短期語学研修（春季/夏季）	(春季)*注1) (夏季)1～4	2
	海外短期語学研修（就業体験準備）	1～4	1
	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
	成城インターンシップ（成城グローバルインターンシップ・プログラム） 《全学共通教育科目 キャリアデザイン科目群》	経文法1～4注2)	2

注1) 配当年次*印の科目は、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位が授与される。

注2) 社会イノベーション学部所属する学生は、同プログラムへの参加により、「OCA（担当：社2～4）」を修得すること。

第3表 データサイエンス基礎力育成・認定プログラム

	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件	授 業 科 目	配当年次	単 位
基礎科目	○	○	データサイエンス概論	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
	○	○	データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
		○	データサイエンス応用	2～4	2
発展科目	○	○	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
		○	データサイエンスアドバンスド・プログラム	2～4	2

（趣旨）

第1条 この規則は、成城大学学則第60条第2項に基づき、成城大学データサイエンス教育研究センター（以下「センター」という。）について必要な事項を定める。

（目的）

第2条 センターは、教育課程の実施を通じて、学生が数学的及び科学的教養を踏まえてデータに基づき思考し行動する能力を培うことを目的とする。

（任務）

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、以下の業務を行う。

- （1） データサイエンス教育に係る授業科目の編成及び運営に関すること
- （2） データサイエンス教育に係る教育方法の研究及び開発に関すること
- （3） センターの予算に関すること
- （4） その他センターの目的達成に必要と認められる業務

（データサイエンス教育研究センター長）

第4条 センターに、データサイエンス教育研究センター長（以下「センター長」という。）を置き、専任の教授をもって充てる。

- 2 センター長は、学長が指名する。
- 3 センター長は、学長の監督の下に、センターの業務を統括する。

（データサイエンス教育研究センター員）

第5条 センターに、データサイエンス教育研究センター員（以下「センター員」という。）を置く。

- 2 センター員は、センターの業務を行う。
- 3 センター員は、専任教員の中から学長が委嘱する。
- 4 センター員の任期は2年とし、再任を妨げない。

（委員会）

第6条 センターに、センターの運営及び業務について審議するため、データサイエンス教育研究センター委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会は、次の委員をもって構成する。
 - （1） センター長
 - （2） センター員
 - （3） 学部長が推薦する教員各1名
- 3 委員は、学長が委嘱する。
- 4 第2項第2号及び第3号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第7条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、センター長をもって充てる。

（会議）

第8条 委員長は、会務を総括するとともに会議を招集し、その議長となる。

- 2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職を代行する。
- 3 委員長は会議運営のため、教務部長、図書館長、メディアネットワークセンター長、事務局長、その他委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（外部アドバイザー委員）

第9条 センターに、外部アドバイザー委員を置くことができる。

- 2 外部アドバイザー委員とは、データサイエンスに関して専門的識見を有する、学外の企業、行政機関若しくは各種団体の関係者、又は他の研究教育機関の研究者等で、センターの活動及び運営に助言を与える役割を担う者をいう。

- 3 外部アドバイザー委員は、委員会の議を経て、学長が委嘱する。
- 4 外部アドバイザー委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 5 外部アドバイザー委員を置いた場合、センター長は、外部アドバイザー委員を招集し、年度内に少なくとも1回はセンターの活動及び運営に関する助言を得る機会を設けなければならない。

(事務)

第10条 センターに、その事務を処理するため、事務室を設け職員を配置する。

- 2 事務室の事務は、事務局総務課が担当する。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関して必要な事項は、委員会の議を経て、センター長が別に定める。

(規則の改廃)

第12条 この規則の改廃は、教授会及び評議会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

- 1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 第6条第4項に定める第2項第3号の委員の任期は、平成31年4月1日を始期とする場合に限り、2年1月とする。
- 3 第1項にかかわらず、センターが設置されるまでのあいだ、データサイエンス教育に係る業務を共通教育研究センターより円滑に移行させることを目的として、制定日より平成31年3月31日までの期間において、第9条から第12条までを除き、この規則における「センター長」を「共通教育研究センター教養教育部会データサイエンス科目専門部会長」と、「委員会」を「共通教育研究センター教養教育部会データサイエンス科目専門部会」と読み替えて、この規則に準じてその業務を行うことができるものとする。ただし、この場合において、委員会の委員は、これを新たに選出することはせず、学長の命により、共通教育研究センター教養教育部会データサイエンス科目専門部会構成員が務めるものとする。

（目的）

第1条 この規程は、成城大学自己点検・評価規程第2条第2項及び第4条から第7条までに基づき、成城大学データサイエンス教育研究センター（以下「センター」という。）における自己点検・評価に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第2条 センターに自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任務）

第3条 委員会は、次に掲げることを任務とする。

- （1）自己点検・評価の実施計画の立案に関すること。
- （2）自己点検・評価の実施に関すること。
- （3）自己点検・評価報告書の作成に関すること。
- （4）成城大学全学自己点検・評価委員会（以下「全学自己点検・評価委員会」という。）との連絡・調整に関すること。
- （5）その他自己点検・評価に関すること。

（組織）

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- （1）センター長
- （2）センター員
- （3）大学事務局長
- （4）総務課長
- （5）センター長が必要と認めた者

2 第1項第5号の委員の任期は、2年以下としセンター長が定める。ただし、再任を妨げない。

3 委員会に委員長を置き、第1項第1号の委員をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

6 委員長は、必要があるときは委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

（点検・評価結果の報告）

第5条 委員会は、自己点検・評価の結果又はその進捗状況をセンター委員会及び全学共通教育運営協議会に報告し、全学自己点検・評価委員会へ報告することの了承を得るものとする。ただし、全学共通教育運営協議会に報告する自己点検・評価の結果又はその進捗状況は、成城大学全学共通教育運営協議会規則第2条及び第3条に規定する事項とする。

（その他）

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営及び自己点検・評価の実施等に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

（改廃）

第7条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て、センター長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

成城大学 データサイエンスに関する取組概要

本学の運営母体である学校法人成城学園の創立100周年を機に、第2世紀に向けたビジョンが示され、教育改革の3つの柱として「国際教育」、「理数系教育」、「情操・教養教育」が掲げられた。その中で、「理数系教育」を推進するにあたり、文系大学こそ数理・データサイエンス・AIの視点を兼ね備えた次世代の人材を育成するべきとの考えから、全学共通教育科目としてのデータサイエンス科目群の設置・運営に取り組んできた。

構想・計画 段階
～ 2014年度

実行・展開 段階
2015～2021年度

発展 段階
2022年度～

- 文系の次世代人材育成に関するディスカッション
- 全学共通教育科目 or 学部新設科目の意思決定
- カリキュラムの構想
- ディプロマの要件定義
- 連携先企業の選定
- 連携先企業との包括協定締結

- 連携先企業と全学共通教育科目としての授業を開始
- 科目の順次増設、履修者の増加に応じてクラス数の増加
- データサイエンス専任教員の採用
- 運営母体としてのデータサイエンス教育研究センター機能の新設
- 共創スペースとしてのデータサイエンス教育研究センター完成
- 「リテラシーレベル」の数理・データサイエンス・AI教育プログラムへの応募

- 「応用基礎レベル」の認定に向けた構想
- 専任教員の増強
- カリキュラムの強化
- ディプロマの増設検討
- 連携先企業数の増加
- キャリアセンターとの連携等

データサイエンス教育研究センター体制図

データサイエンス教育研究センター委員会

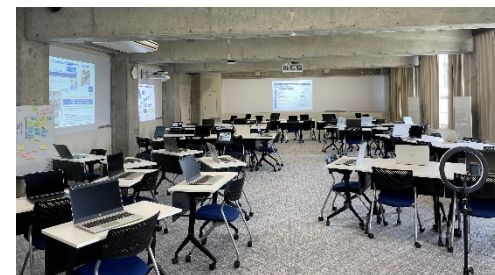
- センター長
- センター員 (特任教授1名)
- 経済学部専任教員 1名
- 文芸学部専任教員 1名
- 法学部専任教員 1名
- 社会イノベーション学部専任教員 1名

外部アドバイザー委員 5名

- ① 一般社団法人ピープルアナリティクス&HRテクノロジー協会 ピープルアナリスト
- ② 大阪大学社会技術共創研究センター 准教授
- ③ 株式会社野村総合研究所金融ITイノベーション事業本部 NRI認定データサイエンティスト
- ④ 楽天株式会社グローバルデータ統括部 データサイエンス部・リサーチサイエンティスト
- ⑤ 琉球大学国際地域創造学部 准教授

47/49

教務部長、図書館長、メディアネットワークセンター長、事務局長



- 全国の人文・社会科学系大学の中では早期の2015年度よりディプロマ授与を計画した授業を開始
- 2021年度で7年目の実績
- 状況に応じて科目とクラス数を増強
(本表のブロックは2021年度開講コマ数を表す)
- 初学者のための概論からアドバンスドまで、豊富な6科目で構成
- 全学部 1～4年生まで、いつでも学べる
- 2021年度末までに延べ2,400名を超える履修登録者がある人気の科目群
- 教室のPCから実際にクラウドにつなげる実習
(2020、2021年度は遠隔授業)

数理・データサイエンス・AI教育プログラム
認定制度 (リテラシーレベル)を想定

Excellently Motivated Student

EMS ディプロマ

データサイエンス
アドバンスド
プログラム

データサイエンス
応用

データサイエンス
スキルアップ
プログラム

DS基礎力ディプロマ

Data Science

データサイエンス
入門Ⅱ

データサイエンス
入門Ⅱ

データサイエンス
入門Ⅰ

データサイエンス
入門Ⅰ

データサイエンス
入門Ⅰ

データサイエンス
概論

データサイエンス
概論

データサイエンス
概論

データサイエンス
概論

データサイエンス
概論

データサイエンス
概論

補足資料②：成城大学 データサイエンス科目群 累積履修登録者推移



- データサイエンス応用
- データサイエンス・アドバンスド・プログラム
- データサイエンス入門Ⅱ
- データサイエンス・スキルアップ・プログラム
- データサイエンス概論
- データサイエンス入門Ⅰ

累積履修登録者数

